

# 尚絅子育て研究センター 第18回公開シンポジウム

◎ 講演 〈9:30~11:00〉 管理棟5階 大講義室 A

## 『子どもの心の育ちを読み取るエピソード記述—真の保育の評価とは何か—』

講師：鯨岡 峻（京都大学名誉教授）

いま、保育現場を振り返ると、一見、「問題として取り上げる必要のない子ども」と見える子どもたちの中にも、その心に目を向けてみれば、心が満たされ、心が輝き、充実しているように見えない子どもたちが大勢います。子どもの心の育ちに目を向けた保育をするためには、子どもと保育者の間に「接面」（たとえば、「いま、互いに心が通じ合えた」「いま、響き合えた」という瞬間）を創り、接面で起こっていることをエピソードに記述していくことが必要であると考えます。真の保育の評価とは、子どもの自己肯定感が心の中核に宿っているか、そのためには大人の働きかけがどうあるべきかを考えていくことではないでしょうか。皆様と共に、子どもの最善の利益のために、私たちにできることを真剣に考え合っていけたらと心より願っております。

鯨岡 峻（くじらおか たかし）

京都大学名誉教授

### 〈プロフィール〉

1943年生まれ。秋田県出身

#### 学歴：

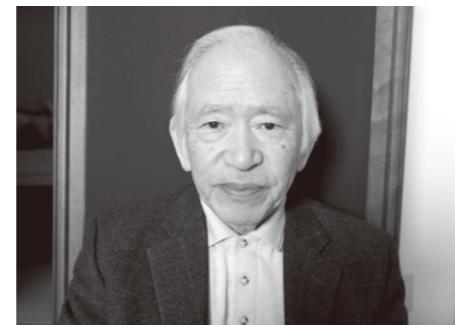
京都大学文学部卒業、同大学文学研究科修士課程を修了後、京都大学博士（文学）。

#### 専門：

発達心理学、発達臨床心理学、保育心理学。主に関係論の立場から、子どもの発達や臨床の問題を考え、関係発達論という新しい発達の見方を提起するとともに、エピソード記述という新しい方法論を保育、教育、看護などの実践領域に向けて提唱している。

#### 職歴：

1970年に島根大学教育学部に勤め始め講師、助教授、教授を経て、1995年に京都大学大学院人間・環境学研究科教授となり、2007年に定年退官後、同年から中京大学心理学部に勤務。2014年に同大学を定年になり、同大学の客員教授を経て、現在は京都大学名誉教授。



#### 主な著書

『原初的コミュニケーションの諸相』（1997年、ミネルヴァ書房）、  
『両義性の発達心理学』（1998年、ミネルヴァ書房）、  
『関係発達論の構築』（1999年、ミネルヴァ書房）、  
『エピソード記述入門』（2005年、東京大学出版会）、  
『エピソード記述を読む』（2012年、東京大学出版会）、  
『なぜエピソード記述なのか』（2013年、東京大学出版会）、  
『関係の中で人は生きる』（2016年、ミネルヴァ書房）など多数。

◎ 対談 〈11:10~12:30〉

管理棟5階 大講義室 A

## 『子どもと心を通り合わせた保育をどうつくっていくか—保育のエピソード記述を通して—』

シンポジスト：佐藤章子氏（あゆみ保育園保育士）  
亀山柚果氏（尚絅大学短期大学部附属こども園保育教諭）  
鯨岡 峻氏（京都大学名誉教授）  
二子石諒太（本学幼児教育学科教員）  
コーディネーター：片桐真弓（本学幼児教育学科教員）

今年度は「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時改訂され、「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が出されました。しかし、いま保育において本当に大切にされなければならないことは何でしょうか。それは、子ども一人ひとりの心が充実し、子どもが主体として生きていくための心の育ちを確保することではないでしょうか。

そこで今回のシンポジウムでは、熊本県内の2名の先生をシンポジストとしてお招きし、先生方には保育者と子どもの間で起こったこと（鯨岡先生の言葉でいえば、接面）を、エピソードとしてご紹介いただきます。それぞれのエピソードを読み手として味わい、意見交換をしながら、保育を振り返ること、子どもと心を通り合わせた保育をどうつくっていくのかについて、共に考え合っていけたらと考えております。

# 第33回サマーセミナー 各講座内容のごあんない

◎ 講座 〈13:30~15:30〉

## 1 生きる土台を育む—食育と保幼小の連携（2号館2階 視聴覚室 B）……………講師 福田泰三 (佐世保市立広田小学校教諭)

福田先生は子どもの「ぐらし環境」の重要性に気付き、食育活動を通して、「弁当の日」、「みそしの日」、「健口教育」など、さまざまな実践を展開し、2008年には文部科学大臣優秀教員として表彰された方です。食育を通して生きる土台を育み、小学校に引き継いでいくための保幼小の連携についてお話しいただきたいと思います。

## 2 保育現場に求められる保護者支援について（2号館1階 第1講義室 C）……………講師 竹下徹

保育現場における保護者支援の役割がますます重要になってきています。その一方で、保護者との関係づくりや対応に苦労している現場保育者は少なくありません。保育者として子育てに不安を抱える保護者をどのように支えていくのか、共に考えていただきたいと思います。

## 3 乳幼児の救急法（2号館1階 第2講義室 D）……………講師 岩永留美、上村若子 (BLSくまもと) (BLSくまもと)

園内の子どもの病気やケガは成長の過程ともいえ全くゼロにするのは難しいもの。いざという時のために、これまでの「知っている」から「だからこうなのね」へ少し踏み込んだ乳幼児救急法知識とスキルに触れてみませんか？ 看護師・救急救命士が最新の蘇生ガイドライン2015を取り入れた内容でお伝えします。実践も行いますので動きやすい服装でご参加ください。定員は30名までです。

## 4 実践！わらべうた（1号館2階 リトミック室 E）……………講師 三島理恵、森みゆき (かごしまこどり芸術教育研究所)

幼い頃に遊んだ（遊んでもらった）記憶が、その人が大人になってからどれだけ支えになっているか想像ができますか？ 現代の子どもの孤立化は人として成長していく中でたくさんのものを奪っているように感じます。「わらべうた」遊びを通して子どもは多くの経験を、近くにいる大人は慈しみを持って！ さあ、遊びましょう。

## 5 保育の音環境における子どもの音表現（1号館2階 音楽教室 F）……………講師 曽田裕司

子どもたちが毎日過ごす保育環境に必ずあるものと言えば、音を挙げができるでしょう。そこは歌だけでなく、気をつけなければ聞き逃してしまうさりげない音であふれています。そのあり方を今改めて捉え直すとともに、子どもたちがそれにどう反応し、どのような表現に結びつくのかを考えてみたいと思います。

## 6 消しゴムでオリジナルのハンコづくり（1号館1階 図工室 G）……………講師 横山博之

簡単にオリジナルのハンコづくりが楽しめる「消しゴムハンコ」。好きなフォントの文字や図案を消しゴムに転写して掘ればできあがります。こちらで用意する図案でも、オリジナルのイラストを基にしたハンコでもかまいません。連絡帳など、ワンポイントを飾るものや、誕生日カードなどをかわいらしく飾るハンコづくりを楽しんでみてください。定員は30名です。

## 7 保育café（管理棟2階 尚絅子育て研究センター H）……………講師 増淵千保美、平田洋介 (はけみや保育園保育士)

日々の仕事の中で、「保育をどうしたらいいんだろう」「こんなこと、今さら聞けないけど、わからない」「保育者として自分はこれでいいのだろうか」などなど、さまざまな悩みや気になることがあると思います。本講座では、みんなで話題を出し合い、ざっくばらんに話し合い、明日への保育の糧にできたらと考えています。きっと、保育のヒントも見つかるはずです！

## ◎ 閉講式 〈15:30~15:45〉 短大学生ホール I

## ◎ オフィスアワー 〈15:45~16:45〉 幼教教員各研究室

卒業生の方は久しぶりの母校で懐かしく思われることでしょう。教員は研究室で待機していますので遠慮せず尋ねてください。また、本校の卒業生以外の先生も大歓迎です。日頃から課題に思っている事や保育に関する悩みなどありましたら、我々と語り合いませんか。

管 理 棟：小川内、柴田、栗川

短大1号館：曾田、森

短大2号館：市川、安村、二子石、

竹下、佐藤、増淵、片桐、坂本、横山

体 育 館：柿原

各教員の  
研究室